

## 平成 31 年度入学試験問題

推薦入学・帰国子女特別選抜・社会人特別選抜・編入学

# 小 論 文

### 注 意

1. 指示があるまで、手を触れないこと。
2. 指示に従って、解答用紙に受験番号（算用数字）および氏名をはっきりと記入すること。
3. 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入すること。
4. 問題冊子は 9 ページ、解答用紙は 2 枚である。もし、問題冊子の落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば、ただちに申し出ること。
5. 問題冊子は持ち帰ること。

**問題 1 (100 点)**

次の文章を読んで，設問に答えなさい。

引用：『スポーツを考える—身体・資本・ナショナリズム』多木浩二著（ちくま新書、1995年、p26～35）

<原文の二次使用の許諾が得られなかったため非掲載>

引用：『スポーツを考える―身体・資本・ナショナリズム』多木浩二著（ちくま新書、1995年、p26～35）

<原文の二次使用の許諾が得られなかったため非掲載>

引用：『スポーツを考える―身体・資本・ナショナリズム』多木浩二著（ちくま新書、1995年、p26～35）

<原文の二次使用の許諾が得られなかったため非掲載>

引用：『スポーツを考える－身体・資本・ナショナリズム』多木浩二著（ちくま新書、1995年、p26～35）

＜原文の二次使用の許諾が得られなかったため非掲載＞

【出典】多木浩二『スポーツを考える－身体・資本・ナショナリズム』（ちくま新書、1995年）

（注1）ドラスティック：思い切ったさま。徹底的で過激なさま。

（注2）心性：こころ。天性。うまれつき。

（注3）パラダイム：一時代の支配的な物の見方のこと。特に、科学上の問題をとり  
扱う前提となるべき、時代に共通の思考の枠組み。

※ 出題にあたり、原文の縦書きを横書きにし、漢数字を算用数字に改めた。また小見出しを削除し、原文の一部を中略、削除した。さらに一部の漢字にふりがなを付した。

設問1 著者は、近代スポーツの多くがイギリスで誕生した理由を、下線①のように説明するだけでは「充分」ではないと述べています。この点についての著者の考えを、ノルベルト・エリアスの「文明化の過程」に依拠しながら、300字以内でまとめなさい。

設問2 著者は、最後に下線②のように、エリアスの暴力批判論の限界について述べています。「国家の戦争権のもつ暴力的な意味」が問題となる現代において、国家間の戦争を抑制し、平和を拡大するためには何が必要か、具体例を示しながら、あなたの見解を400字以内で述べなさい。

## 問題 2 (100 点)

以下の図は、労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較』における各種経済指標の国際比較を示しています。これらの図を参照し、次の設問に答えなさい。

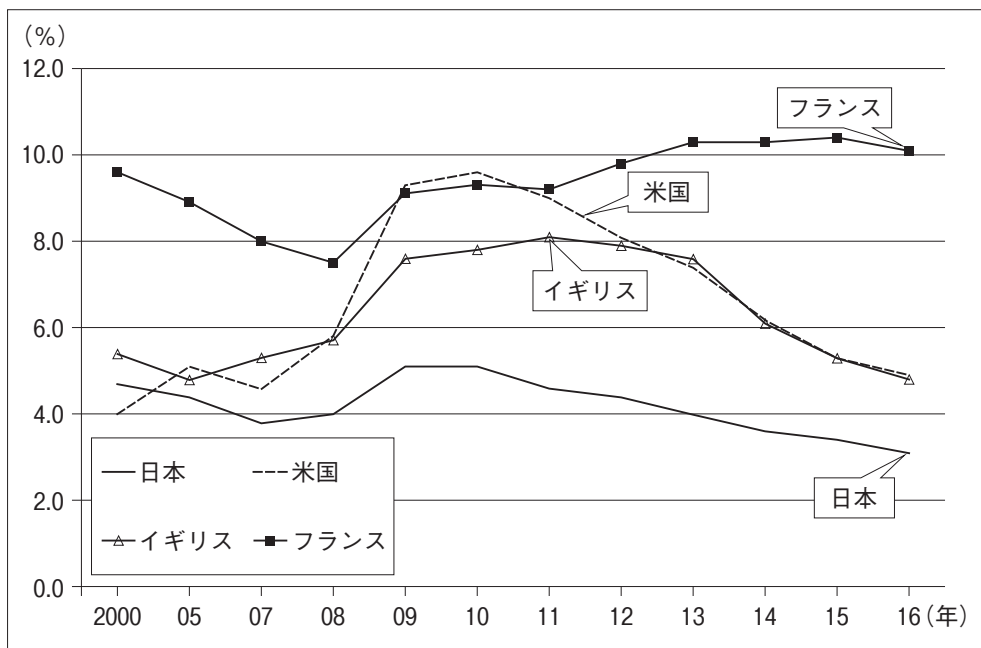
設問 1 日本の経済社会は、米国、イギリス、フランスと比較した場合、どのような特徴をもっているのでしょうか。図 1～図 6 のデータを丁寧に分析し、それぞれの図・データの相互関係も考慮して 200 字以内で説明しなさい。

設問 2 これからの日本の経済社会は、米国、イギリス、フランスのうち、どの国の経済社会を目標・モデルとして改革するのが望ましいでしょうか。まず第一に目標・モデルとする国の経済社会を明示し、第二にその理由を、図 1～図 6 に示されているデータを論拠に用いて説明し、第三にその目標・モデルに接近するための具体的な政策を示し、全体で 400 字以内で説明しなさい。

【出典】労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較』（各年版より作成）

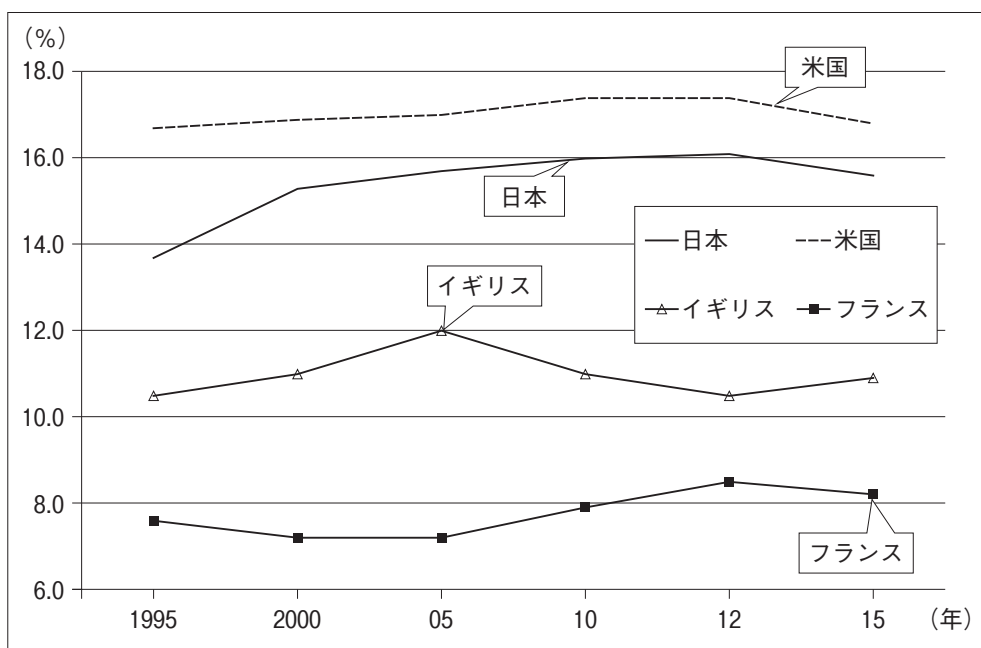
※ 出題にあたり、データを抜粋して図を作成した。

図1 失業率の国際比較



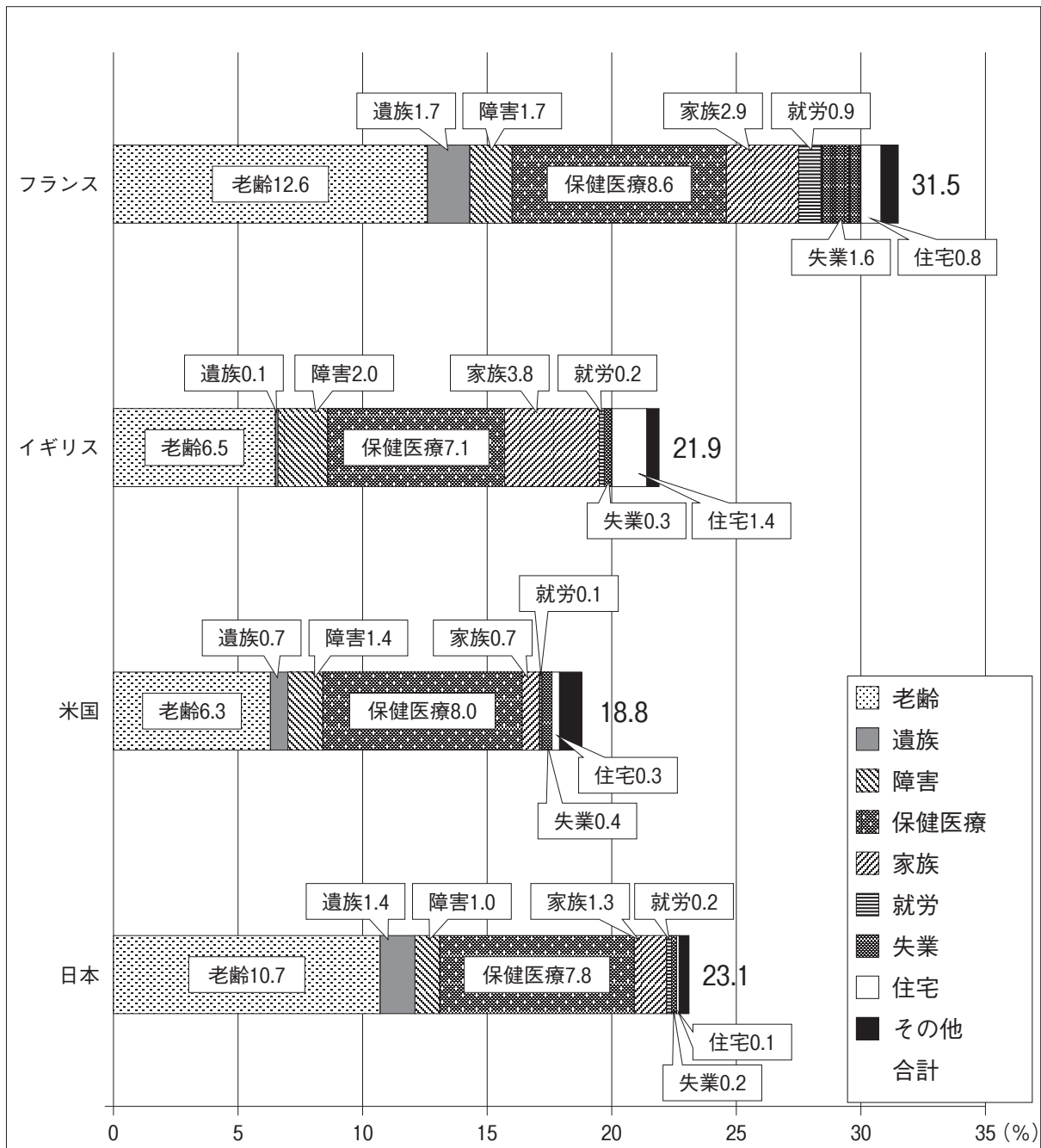
(注) 各国の失業率はILO（国際労働機関）の定義による調整失業率として国際比較できる値に修正してある。

図2 相対的貧困率の国際比較



(注) 相対的貧困率とは、世帯人員数で調整した「世帯可処分所得」の中央値の半分に満たない世帯の割合。フランスの95年は96年の、15年は14年の値。日本の05年は06年の、10年は09年の値。イギリスの95年は94年の値。「可処分所得」とは、給与所得から税および社会保険料負担額を引いたもの。

図3 公的社会保障支出（対 GDP 比）及びその内訳の国際比較（2013 年）



(注) 「老齡」は年金・介護サービス等, 「遺族」は遺族年金等, 「障害」は業務災害・疾病給付等, 「保健医療」は医療給付等, 「家族」は扶養・子育て給付等, 「就労」は職業紹介・能力開発等, 「失業」は失業・雇用保険給付等, 「住宅」は公営住宅建設・家賃補助等。



図4 一人当たり年間総実労働時間と週49時間以上長時間労働者割合の国際比較(2016年)

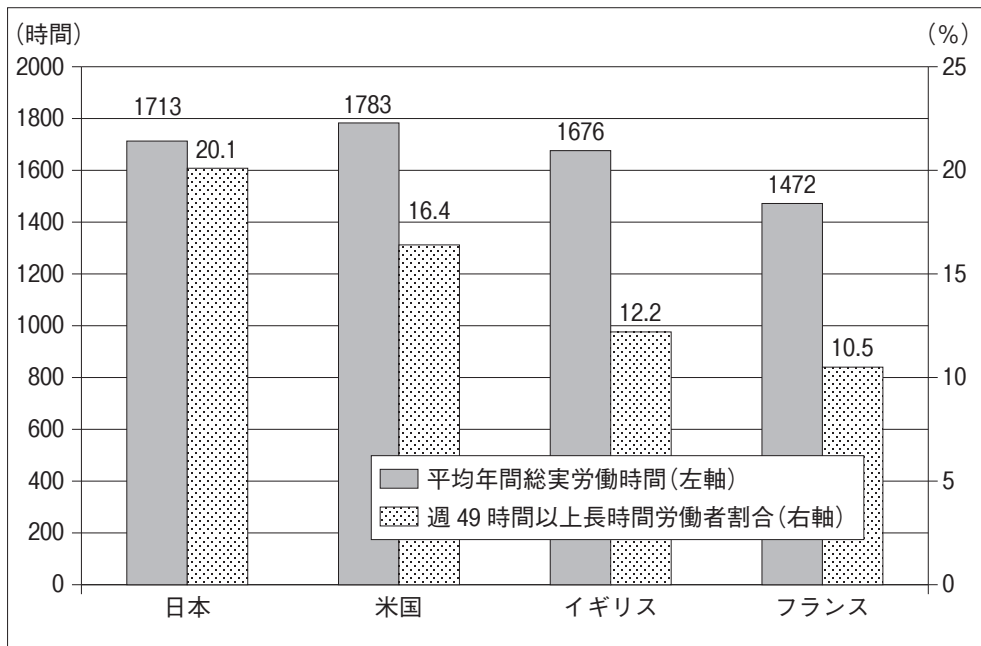
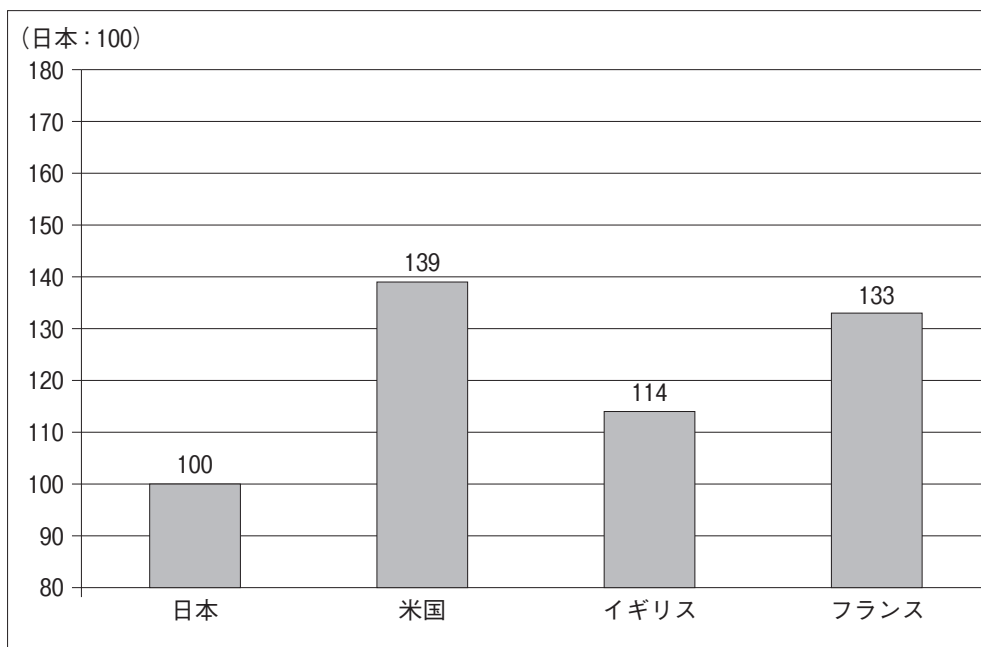
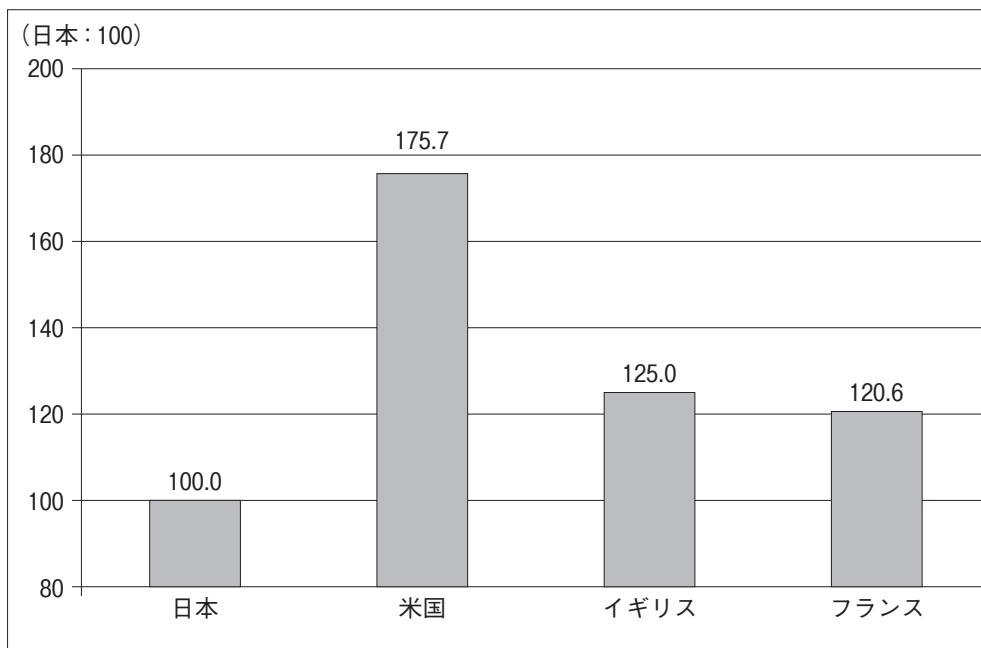


図5 時間当たり製造業賃金の国際比較 (2016年)



(注) 時間当たり製造業賃金は、2016年為替レート換算。

図6 労働生産性水準の国際比較（2015年）



（注）「労働生産性水準」とは、付加価値の国内総生産（2015年為替レート換算）を総就業者数で割ったもの。